

音

「世界の人を幸せにする」というキャッチフレーズのもと、開発がすすめられている特別なスピーカーがある。その名は「ミライスピーカー」。老人性(加齢性)難聴者のためのこのスピーカーの製造・販売を手がける株式会社サウンドファン代表取締役の佐藤和則氏に話を伺った。

「ミライスピーカーは、人間の声に特化した製品です。ひとことという、人の声が非常によく聞こえる。コミュニケーションツールとしてのスピーカーなんです。」佐藤氏によると、特殊な構造を持つこのスピーカーを使うと、特に人間の声がよく聞こえるのだという。そのため、例えば、加齢のために耳が聞こえにくくなった人がテレビを見ようとすると、通常の音量のままでも充分聞こえるようになる。老人性難聴の人は、テレビの音を大きくすると家族にうるさいといわれ、結果として部屋にひとりひきこもって孤立し、認知症が悪化して寝たきりになる、というケースがあるといわれる。健聴者も難聴者も同じ音量で聴くことができるミライスピーカーを使えば、こうした問題を解決することもできる。まさに夢のようなスピーカーだが、いった

いどんなシステムがそれを可能にしているのか。

現在特許申請中なので、公知の事実になってはいけないということで、詳しい構造についてはここに書くことができないが、実際にみせてもらったミライスピーカーの内蔵部は、よく見る普通のスピーカーとは全然違う構造をもっていた。この特殊な構造が、100〜3000ヘルツという、ちょうど人間の声の周波数域の音をよく伝えるのだ

そうだ。しかも、減衰しにくいという特長もある。実際に音(駅のアナウンス)を鳴らしてもらうと、確かに、離れたところにいてもしっかりと聞こえてくるのに驚いた。

「これまでに、4ヶ所の老人ホームで、合計40名ぐらいの老人性難聴の方にこのスピーカーを使ってテレビの音をきいてもらいました。そのうち35名ぐらいの方が、非常に小さい音量でもよく聞こえるという結

果になりました。また、83歳になる私の父は、中度の老人性難聴で6年ほど補聴器を使っているのですが、ミライスピーカーを使うとはつきり聞こえる、と言ってくれたのです。」

さらに、7年前に右耳の聴覚神経に腫瘍ができて手術でほとんど取ってしまった人にも実験したところ、「この7年でこんなによく聞こえたことはない」と言われたという。これには、佐藤氏自身も驚いたそう。ミライスピーカーは、健聴者と難聴者が同じように聞こえるという特質をもっている。例えば病院や役所などの公共施設など、健聴者と難聴者が混在する場所に設置することが可能だ。また、減衰せずに遠くまでよく聞こえるという点を考えると、防災無線などに利用すれば、放送が聞こえなかったためにお年寄りが逃げ遅れるといった悲劇を未然に防ぐことができるだろう。日本は現在、世界でいちばん高齢化社会が進んでいるといわれている。つまり逆に考えれば、日本で生まれたアイデアは世界に広がるチャンスがあるということだ。老人性難聴者にとって福音ともいえるミライスピーカーが、まさに「世界中の人を幸せにする」未来が訪れる可能性はきわめて高い。



聴覚障がい者のための未来のスピーカー

語り◎佐藤和則 文◎室田尚子

音響音

Time

interview with Kazunori Sato
text by Naoko Murota

さとうかずのり 佐藤和則

1956年生まれ。中央大学卒業後、富士ゼロックス、サン・マイクロシステムズ、デルコンピュータ、アスクル株式会社などに勤務。2013年10月株式会社サウンドファン設立、代表取締役に就任。



株式会社サウンドファン
〒111-0053
東京都台東区浅草橋1-21-1 光ビル3階
TEL 03-5825-4749 FAX 03-5825-4794
<http://soundfun.jp/>